

事業評価委員会意見書

1 事業を実施する必要性について

- 岡山盲学校、岡山聾学校について、主な施設は、それぞれ築40～50年程度が経過し、老朽化が進んでいることに加えて、岡山盲学校は、土砂災害の危険性がある土地であるなど、安全面で不安がある状況は早急に改善すべきである。
- いずれの学校も、施設建設当時から児童生徒等数が大きく減少し、今後も減少していく可能性がある中で、一定規模の集団による多様な学習活動を行っていくための教育環境づくりが必要である。
- 視覚障害者教育・聴覚障害者教育の両部門を併設した新しい一体型の学校を現在の岡山聾学校の運動場に整備することは、こうした課題を総合的に解決する方策として合理的であり、また、それぞれの学校で改修工事を実施する場合と比べて、改修費等の節減にもつながるものであり、妥当である。
- なお、障害特性の異なる児童生徒等が同じ敷地で教育を受けることについて、現時点の整備の方針でも相応の配慮はなされているが、他県における先進事例も踏まえながら、さらに検討を進めてほしい。

2 施設の規模、機能等について

- 今後の児童生徒等の在籍見込み等を踏まえた規模であり、概ね妥当である。
- 各建物について、日当たりや安全面にも配慮するなど、適切な配置となるよう引き続き検討してほしい。

3 財政負担額と効果の比較について

- 事業内容に鑑みれば概ね妥当な水準と認められるが、今後も物価上昇が続くと見込まれるため、必要な施設・設備等は整備しつつ、コストの削減に向け、工夫を続けてほしい。

4 事業手法等について

- 県立学校という性質上、県が責任を持って主体的に事業を進める必要があるため、PFIの手法を用いないことは妥当である。
- なお、民間事業者への委託については、周辺の学校との共同委託の可否など、運営コストのさらなる削減につながる方法を検討してほしい。

施設整備に関する総合意見

- 本事業計画について、事業の必要性及び緊急性が認められ、内容も概ね妥当であると考ええる。
- ただし、できるだけ事業費及び管理運営費の低減を図り、費用対効果の最大化が図られるよう努めるべきである。
- また、いずれの学校も老朽化がかなり進んでおり、安全面に不安のある状況にあるため、現在予定しているスケジュールで整備ができるよう努めるべきである。